

議事録

平成29年度第2回島根県企業局経営計画評価委員会

日 時 平成30年1月30日（火）

14:00～16:00

場 所 市町村振興センター 大会議室

○委員長

それでは、これ以降は私が進行させていただきます。

今、御説明がございましたように、議事の（1）番の（2）番っていうのが、守る、攻めでいくと、守るほうですね。計画をしっかりと守っていく、運営していく。それから（3）番は、これ攻めるというか、各事業の取り組み状況を御説明していただくということで、（1）、（2）を一括して、そして（3）も別のところで一括してという形で。そして最後に、一応、御質問をみんなでお伺いするという形で進めさせていただきます。

先ほど局長からの御説明のところもありましたが、きょうはいろんな立場の委員の皆様から御出席願ってございます。あらゆる方向から、この企業局の経営計画の評価をしていただくというふうに思っているところでございます。

まず、会議の運営につきまして確認をさせていただきたいと思います。本日の会議につきましては、公開の会議にしたいと考えますが、委員の皆さん、よろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして会議を進めます。

議事（1）、（2）、平成29年度各事業の運営状況、企業局経営計画平成29年度上期の取り組み状況について、事務局から御説明をお願いいたします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありました各事業の運営状況や経営計画の取り組み状況についての御意見、御質問等をお願いいたします。

飯梨川の工水の送水管の取りかえをされて、その送水管の状況っていうのは、かなりぼろぼろのような状況なのでしょうか。それとも、どういう状況でしたか。というのは、これから先、まだまだこういった状況というのは起こるのかなというふうに思うのですが。

○企業局

飯梨川の工水の送水管につきましては、前回のこの評価委員会の中でも写真等で漏水の

議事録

状況等を御報告させていただいておりますけども、特に東出雲から松江にかけて、このあたりが腐食性の土壌ということで、その範囲にある管につきましてはかなり老朽化が進んでおまして、ボルトが腐食したり、それから管体に多少腐食が発生したりという状況にございました。今、そのあたりを優先的に入れかえを進めようとしているところでございます。

○委員長

どうもありがとうございました。

どうぞ。

○委員

水道事業のどこなんですけど、水道料金のところで斐伊川の水道のところで単価が下がっているとおっしゃったんですけども、どういう理由で下がっているのですか。

○企業局

これは水道の料金というのは、いわゆる資本費、物をつくったときのお金と、それから運営するときの運転管理費という2つのものが重なって、両方足して料金というものが構成されております。斐伊川水道につきましては、いわゆる施設にかかわりませ資本費部分、これが年々下がってきておることがございまして、結果的に料金が下がっておるということでございます。

○委員

運転管理費用と、最後のところ、もうちょっと詳しく教えてもらっていいですか。

○企業局

専門的な所についてイメージとしてもう少しわかりやすく御説明申し上げます。水道料金は運営の期間にかかる費用を見越して料金としていただいております、この計画が変わったことに伴いまして、かかる費用が減ったということで、この期間は減ることになる。具体的には、先ほど申しましたように減価償却費が進んだことによりまして、そういう負担が減ったということで、前年と比較しましても減っているということになります。

○委員

わかりました。ありがとうございました。

○委員長

そのほかございませんでしょうか。

どうぞ。

議事録

○委員

個別的取り組みの成果指標のところ、目標値に対して、上期半分まで実績のところ、目標値に対する実績のところはまだまだのところがあると思うんですが、資料1のそれぞれの事業のところでは、第3四半期までの累計が出てわかりやすかったです、今期の達成の目途として、技術資格だけ、これは平成37年度までですよね。なので、個別的取り組みのうち、技術資格は、これ平成37年度までに80でいいわけですね。それ以外のところは、毎年度の目標値に対しての第3四半期まで含めて把握されているのかどうか、そこまで含めて、ちょっと今年度の達成の見込み等についてお聞かせいただければと思います。

○企業局

実績といたしまして、上期のところはここに書いてあるとおりでございまして、発電関係等につきましては、御説明させていただいておる……。

○委員

その他の最後の。資料2の一番裏の個別的取り組みのところ。

○企業局

ちょっと今、手持ちに持ってなくて、先ほどの、冒頭、局長の挨拶の中で述べておりますけども、局内で毎月の実績を把握しておりまして、先般の1月にやったところで第3四半期の状況は数値ありまして、皆さんにその状況はお知らせしたいと思いますので、済みません。ちょっと今こちらのほうに、手持ちにないもので申しわけございません。

○委員

一番上の危機管理訓練の回数とかが結構重要なのではないかと思ったもので、いろんな都合で、天候などで流れたという話は前回もお伺いしたのですが、これは今年度中に達成の見込みとか、あるいは難しい場合はどのように対処するかどうか、わかりましたらお願いいたします。

○企業局

今の御質問なんですけど、危機管理訓練につきましては、今のところ、先ほどお話がありましたとおりで、これまでに気象の関係とかいろいろちょっと都合がありまして達成できておりませんでしたけど、年度内には一応この8回を目標にできるんじゃないかなという感じにはなっております。大事なのはやっぱりきちっと危機管理訓練をして、皆さんに安心していただく。要は我々が準備をきちっとしていますというのをお示しすることが必要だと思っておりますので、この8回達成に向けて頑張っていきたいと思っております。

議事録

○委員長

そのほかございませんでしょうか。じゃあ、お願いします。

○委員

電気事業の、資料2の1枚目のところですけど、左から2番目の列、上半期の取り組み内容の中で、下から2番目の丸、太陽光発電所の建設と保守云々とありますが、この中で太陽光発電所全所の保守管理を委託ということになっておりますけども、これは具体的に、地域的にも分散しているとか、いろんな背景等があるのかもしれませんが、コスト面で優位性があるとか、いろんな理由によってだとは思われますけども、これについてちょっと具体的な詳細なことがもしわかれば、ちょっと教えていただければと思います。

○企業局

今の太陽光発電につきましては、委託について、施工していただいた業者の方に実はお願いしております。今、我々のほうで保安規程という電気事業法に基づきました、例えば1カ月に1回必ず巡視しましょうとか、何年かに1回精密点検をしましょうというのを実は定めておまして、その1カ月に1回の巡視、これらについては施工された業者さんのほうにお願いしているということでございます。これはなぜかという、やっぱり施工したということは、自分たちが何をどこに配置したか含めて熟知していらっしゃるということがございますので、彼らにお願いしていると。比較的、頻繁な話ではございませんので、金額的にも比較的少額で済んでいるという状態でございます。太陽光自体があんまり故障とか起きない電源でございますので、その辺もあって状況的にはそういう状況にあるということでございます。

○委員長

じゃあ、お願いします。

○委員

個別的取り組みのところ、施設見学・出前講座の参加者のところなんですけれども、ここで再エネツアーの見学希望者が減少してきているというふうになっております。毎回何かそんなことになっているような気がするんですけども、私、2回このツアーというか、視察に参加させていただいて、とってもいいツアーだと思います。非常によくわかって。こういうのってすごく子供たちって興味を持つと思うんですよ。今回、小学校等にチラシ等を配っておられますけども、チラシだけではなかなかわからないというところもあるので、例えば小学校のほうに出向かれて、こんなことをやっていますよっていうような

議事録

PRなどもされたらどうなのかなというふうに思いました。

○企業局

ありがとうございます。御指摘のように、施設見学・出前講座の参加者数というのが年々減少してきております。昨年7月のこの委員会の場でも御説明させていただいたんですけども、特に再生可能エネルギーの見学ツアーというのは26年度にスタートして、減少してきていました。29年度は、夏休みには松江、出雲からバスを仕立てて、そういった企画をやりましたけども、思ったほどは人が増えませんでした、約10人の方に御参加いただいたところですが、ただ、少しは、良いアイデアで、効果はあったのかなと思っております。御指摘のように、こういったツアー参加していただいた方には結構好評でして、なかなか見る機会のないものを見ていただくということですが、十分にPRができていわけじゃございません。今回は地元市の教育委員会の方々にもお願いしたんですけども、結構夏休みはいろんな催しが多くて、なかなかPRのネタもたくさんあるみたいです。非常に良いことをやっているという自負もありますので、こういった取り組みをいろんな媒体を通じて、これからも工夫してPRしていきたいと思っております。

○委員長

そのほかどうでしょうか。

この、風力発電の状況がよくなっているというのがございますが、この資料1では、風況に恵まれたっていう文章が出てきて、一方資料2のほうでは、まだメンテナンスとか、そちらの方が非常に功を奏したっていうような印象を受けるんですけども、これは多分両方だとは思いますが、正直どっちのほうが。やっぱり風況というか、風向きがよかったというほうが印象としては強うございますでしょうか。そのあたりどうなんでしょう。

○企業局

おかげさまで、今年度は大変風力発電がよく回ってくれてると。設備利用率が大変いい数字が今のところ出ております。あと残り2カ月、何とかなるんじゃないかなという具合に思っておりますが。一つは、先生がおっしゃいましたように、風況、風がすごく今年度は良いと。特に下半期は、今日もすごく寒いんですけど、こうやって冬型の気圧配置になることが多くて、やっぱりこういう時、かなり北から北西の風が吹いて、それも強い風が吹いてくれますので、なおかつ安定した風が吹いているというところ、これが一つ大きいと思います。

それともう一つ、実は風況と同じぐらいに効果が出ているのが、これまで、高野山は例

議事録

えば平成21年の2月に供用開始したわけで、そろそろ8年ぐらい経つんですけど、この8年間いろいろ苦戦をしたというのがございますが、その苦戦をしたなりにいろいろ改良して参りました。その改良の効果がちょっと出てきたかなど。要はこれまで壊れていた部品が、基本的に壊れなくなったというところがございます。それはいろいろ原因をちょっと掴んだところもあって、そのあたりが修正できたというところも大きいんだろうなと思っています。風と、それからメンテナンス、両方が併さって、今のところはっきり言って絶好調に近い世界です。以上でございます。

○委員長

ありがとうございました。そのほかございますでしょうか。

ちょっとちっちゃなことなんですけど、情報発信という意味で、今までカレンダー作っていただいて、それ結構重宝していたんですが、今年は何かあれ、ない。そのあたりはいかがでしょうか。

○企業局

ちょっと会議の前に、委員長さんとその話をちょっとさせていただいたんですけども、諸事情がございまして、今年のカレンダーはちょっと作成しておりません。ちょっとこの場で、じゃあ、来年から作りますと一応宣言はできないんですけども、いろんな声も聞いておりますので、そういったことも含めて、ぜひ前向きには取り組んで参りたいと思います。

○委員長

そのほかございますでしょうか。

それでは、ほかに御意見、御質問がまた、ないようでしたら、次のほうの議題に入らせていただきます。

続きまして、議事（3）各事業の取り組み状況について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

○委員長

ありがとうございました。各事業の取り組み状況を報告していただきました。

ただいまの御説明につきまして、御質問をお願いいたします。

じゃあ、お願いします。

○委員

議事録

第3四半期の細かい数字、ありがとうございます。それで、資料3と資料4の安全計画と飯梨川の工業用水道事業に関連したことなのですが、特に工業用水道事業、かなりのお金が必要になるということがわかったんですが、もう一つ、水道関係は、これちょっと私の専門とするところですけど、これから水質管理だったり、あるいは水道管の状況などを把握するのに、いわゆるI o Tですよ、特に今、水道事業で一番注目されているところだと思うんですが、そういう新しい機器を導入するということで、新しい投資も必要になるんじゃないかなという感じがするんですね。特に水道管、水質管理では、地元の小松電機さんなんかですか、新しいシステムなんかも開発されていますけども、そうすると、そこにもう一つ投資が必要になるということと、一方でそういう投資をすれば、逆に今度は効率的に管理をすることができて、逆にコスト削減につながるのではないかという、水質管理だったり、例えば水道管でどこが破損してるかというところを事前に把握して、必要なところに必要な対処をするというような効率的な管理も一方で可能になってくると思うので、そういったところは考えておられるのかどうかということをちょっとお聞きしたいところです。

○企業局

今のI o Tを活用した技術とか、いろいろ近年、極めて技術革新がすごくて、確かに先生がおっしゃるとおり、そういうことを活用することによって、効率的な管理ができるんだろうという具合に思っています。ただ、我々これをやろうと思ったときに、自分たちの考えだけでじゃあ来年度やりましょうかというわけにはなかなかなくて、要は受水団体の皆様、それから受水企業の皆様、このお客様の御了解を得た上で、これが最も良いねという話になれば、そういう具合に持っていくことができると思っていますので、調査研究しながら、受水団体の皆様、お客様とも御相談させていただいて、丁寧に今、御説明しながら、場合によっては当然そういう投資することで、最終的に費用が安くなる、結果的に料金が安くなる場所に結びつく可能性があると思っていますので、調査研究して参りたいという具合に思っております。

○委員

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○委員長

そのほかございませんでしょうか。

じゃあ、どうぞ。お願いします。

議事録

○委員

済みません、わかればいいですが、工水の施設管理基本計画のほうの説明をいただいたんですけども、更新期が重なってくるといった中で、例えば機械とか電気設備であれば定期的な点検をしながら、なるべく延命化を図っていくというようなこともやっぱり考えていかないといけないのかなというふうに思ってますし、あるいは管路等でしたら、例えば法定耐用年数40年とかがあるわけですけども、例えば铸铁管ですと、倍の期間ぐらいは十分土質によっては使えるような場合もありますし、何かそういった法定耐用年数は耐用年数として、独自に県のほうで、この期間ぐらまでは耐用可能だというような取り決めみたいなものを内部的にとりながら、状態監視しながら更新をしていかれるのか、ちょっとそのあたりのところがもしあれば教えていただければなと思います。

○企業局

ただいまの話なんですけど、機械・電気設備につきましては、もちろん日頃のメンテナンスをきっちりやることで、できるだけ長くもたせる。それが結果的に料金のこととか、逆に低減のほうにつながると思っていますので、これは先ほどちょっとお話しさせていただきました電気工作物の保安規程等で、点検の頻度とかきちっと決めておりますので、もちろんそれに従って適切に管理していくということになろうと思っています。

それから、管路につきましても、耐用年数は40年でございますけど、もちろん40年たったからすぐ更新しましょうというわけじゃなくて、先ほどの佐藤のほうも御説明させていただきましたが、目標耐用年数というのを別途定めて、これは法定耐用年数よりずっと長い期間になるんでございますけど、それで状態監視をしながら、悪いものから、なおかつ平準化して、一気に料金が上がったりしないような手立てを尽くすということになるかと思っております。

○委員長

ありがとうございました。

そうしますと、もう全て含めて、議題以外の事柄も含めて、今日お話の中の今後の企業局全般にわたる内容についても意見交換をしたいと思っております。何でも結構ですので、御質問、御意見等あれば、お話ししていただけたらと。

どうぞ。

○委員

2つあります。いいでしょうか。

議事録

○委員長

どうぞ。

○委員

2つあります。一つは水道水のことです。去年の夏、施設見学に参加させていただきました。実際に見ると、大変手間と時間とお金がかけて水が作られていて、安心・安全な水が、家庭の蛇口から捻ると出てくるというのがよくわかりました。

安心・安全な、水安全計画というものを策定されたということですが、浄水場の取水口から家庭の蛇口までだけでなく、川の源流の森づくりってということが非常に大切だということをテレビとか新聞で見るとはいいんですけど。手元の資料ではその森づくり事業の参加者が減っているようですが、そういうのをもう少し積極的に働きかけて、子供たちはじめ、さまざまな世代が参加できる催し物など、そういうところに力を入れていかれてはどうでしょうかということと、

二つめは、飯梨川工業用水の施設更新ですが、素人が見ましても大変莫大なお金がかかるんだらうなということを思います。去年、企業局というものを全く知らなくていろいろレクチャーを受けたのですが、企業債というものを発行されていて、それで賄うこともあると聞いたんですけど、飯梨川工業用水の施設更新事業の莫大なお金っていうのは、企業局の企業債だけで賄われるのか、加えて国の補助金とかそういうものをもらってするのか、大きなお金の流れはどうなってますでしょうかということ。以上です。

○企業局

最初に森づくり事業のことです。これは具体的に、直接的にうちの水をつなげてという事業ではなくて、そういった啓発的な要素も含めて、森が大切だよということも含めて、かなり前からやらせてもらっている事業です。先ほどの実績でちょっと言いました、若干今年の実績は実績が、今やってもらえる団体が、たまたま端境期なのかなということもありまして少なかった状況ですけども、昨年度まではそれなりの状況でやってもらって、先ほど今後の取り組みのところで申し上げていますが、PR等なんかも努めて、ぜひ、勧めたいと考えています。例えばある団体では、小学校に声をかけて、一緒に植樹をするということもされているケースも多くて、子供たちにとっても非常にいい思い出になるのかなということやら、あるいは森の大切さみたいなものをわかってもらう上でも大事なものだと思っておりまして、ぜひうちのほうの予定しているものを確実に担っ

議事録

てもらえるように、今後PRには努めて参りたいと思います。

○企業局

工業用水道の更新と企業債の関係ですけれども、私どもの事業で企業債という形でお金を借りて事業を進めているわけなんですけど、それも最終的にはお客様からいただく料金収入で賄っていることになります。なかなかこのあたりがちよっとわかりにくいんですけども、例えば、先ほど耐用年数という言葉も出ましたけども、ざっくり申し上げますと、工業用水道施設が法定だと40年ぐらいなんですかね。なので、言ってみれば、40年使う施設を造るわけです。それが仮に40億かかるとするならば、毎年必要となる費用が、要は40分の1、1億円。毎年1億円分を料金でいただいてという形です。施設について、新しいもの造って40年使うわけなんですけども、いきなり40億もらえませんが、その間の、言ってみればお金の調整を借金という形でやっているという姿でございます。そういう形でやっていますので、すべからず工業用水道の場合には受水企業の皆様、それから水道の場合には受水市の皆様の方々とよくお話をし、かなり長期にわたる投資にもなりますので、効率的に進めて理解が得られるようにやっていきたいという計画にしております。よろしくお願いたします。

○委員

ありがとうございます。

○企業局

追加でございます。今の料金というか、工水の関係なんですけど、補足でございますけど、もちろんお客様からいただく財源だけじゃなくて、もう一つはやっぱり補助金というのはもちろんございます。ただ、補助金を採択していただくためには、もう日本全国、大体工業用水、水道もそうなんですけど、老朽化が進んでいるという状態の中で、要は奪い合いみたいな感じになっているんですね。そうすると、例えば南海地震であつたりとか、ああいう地震地帯がまず優先される。それから、例えば同じレベルであれば、きちっと計画ができていないか。そういうところを国がきちっと審査して、優先順位をつけながら、補助金を交付されますので、我々も手をこまねいて、ただ待っているだけじゃなくて、こういう基本計画とか含めてきちっと整理しながら、国のほうともきちっと協議をしていくというつもりでおります。

○委員

本当に大きなお金なので、つつい心配してしまいますけど、お金の流れがよくわかり

議事録

ました。ありがとうございます。

○委員長

そのほかどうでしょうか。

何か御意見ございましたら、お願いします。

○委員

資料4ですけれども、飯梨川の工業用水道事業なんですけれども、2の事業の概要で給水能力と契約水量の比率、いわば施設の稼働率が、給水能力が3万4,000トン、契約水量が1万9,000トン、約6割ということなんですけれども、一方で次の3の管理基本計画で、将来も現在の施設能力と同じで、契約水量も一緒だと。数字が現在と将来とで一緒なんですけれども、これはあれですか、契約水量を上げていくという営業努力はしないということなんでしょうか。普通なら稼働率を上げるために、契約水量をもっと増やすというのが民間企業的な発想なんですけれども、これですと現状維持ということで、その一方で、ダウンサイジングということで、契約水量、需要に見合った供給量にしていくと、いわば供給能力を縮小していくと、そういったイメージでして、なかなか前向きなイメージが出てこないという感じがするんですけれども。したがって、契約水量を増やす努力はしないのかということと、そういった契約水量が伸びない分は、分母の施設能力を削減していくということなのか、全体的に何か後ろ向きというか、そういうイメージがするんですけれども、そこら辺はどうでしょうか。

○企業局

将来の、いわゆる営業努力、これはこの委員会でも頑張るということは申し上げているところなんですけれども、工業用水につきましては、全国的な人口減というのはありますけれども、例えば大きな利用の企業が入ってくるとどんと増えるということもありますので、そういった可能性はゼロではないというふうに思っております。そういった中で、まずは地道にできるのは、この管路の沿線の中で、例えば今、上水道を使っておられるんですけど、工業用水に切りかえることによってコストメリットが出るユーザーさんがおられれば、そういったことも含めての何とか需要拡大を図りたいというところの活動はしているところでございます。そういった中で、今後のこの施設管理基本計画の中においては、ある程度施設規模を見きわめながら進めていく必要があるかと思えます。その裏返しとしましては、先ほどお金の流れのところでも申し上げておりますけれども、結果的には投資はユーザーさんの負担で回収する格好になりますので、過大な投資をするのも避けるべきということもあ

議事録

りまして、そういったなかなか難しいところを見きわめながら進めていく必要があるかと思っています。要は需要拡大につきましては、我々の先ほど言った地道な取り組みと、それから、関係市、関係部局、商工労働部になりますけど、そういったところの企業進出の動きなんかを逐一押さえながら計画は進めていかなければならないのかなというふうに考えております。

○委員長

ありがとうございました。そのほかございませんでしょうか。

何か全般通じて御質問、御意見等があればお願いいたします。

○委員

まだ、余り詳しいことがわからないまま、お引き受けしてからの回数も少ないんですけど、何かあったときの連携的なところでは、具体的にどことどういう連携するということが進んでいるかどうかというところがちょっと気になりましたけれども。有事の際というか。

○企業局

何かトラブルが生じたときのということですかね。

○委員

災害っていういろんな程度のもがあると思うんですけども、大きいものでしたら危機災害のようなものですね、自然の災害の大きなものであったりとか、そういう施設にダメージを与えるような災害があったときとかは、どういうふうな連携的なところがとられることが、もう決まっているのかどうかということがちょっと気になりました。

○企業局

この水安全計画、特に上水道でございますけど、ちょうど、今日松江市のほうからもおられますけど、我々、日本水道協会のほうに実は入っております、今、日本水道協会の島根県支部は松江市上下水道局様のほうが事務局をさせていただいているんですが、ここを中心に、何かトラブルあればお互いに相互応援をするという具合になっております。先般、邑南だったですか、日貫のほうで、この間の寒波で水道管が破裂というか、水漏れが出ちゃって、あの時も松江市さん、それから出雲市さんが給水車をすぐ派遣されて、適切な対応をとられたという具合に思っております。そのほかにも、例えば大きな地震があったとき、島根県の中でも、例えば管工事組合と協定を結んでおると。要は何かあったときに、まず一番に人の命にかかわる水、これをトラブル対応してくださいというような協定が実

議事録

は結んでございます。あと、工業用水のほうについては、これは中国、四国、それぞれの事業者と相互応援協定を結んでいるという状態でございます。

○委員長

そのほか何かございますでしょうか。よろしく申し上げます。

○委員

質問というか、要望といいますか、蛇足かもしれませんが、現在国会のほうで、道路の陥没の問題、老朽化したインフラ、こういった送水管、配管、こうしたものが高度経済成長時代にいっぱい造られて老朽化しているということから、漏水によって道路が陥没する。こういった事故が3,000件ぐらい2016年度はあったということで、かなり深刻な社会問題だという認識が広がっているようです。やはり道路と送水管、管路というの、結構密接なところがあるのかなとも思いますけれども、こうしたものが法改正、また予算化という流れになれば、ぜひこの企業局さんもこうして計画も立てられてるということで、緊急度や優先順位を決められて、こうした事業、予算化された事業にも乗っかっていくということ。これも一つ重要な視点なのかなという気もいたしましたので、意見ということでちょっと申し上げさせていただきたいということでございます。以上です。

○委員長

ありがとうございました。そのほかございますでしょうか。よろしゅうございますか。

ほかに御意見が無いようでしたら、少し最後に一言だけお話をしたいと思います。

企業局の経営状況等を見させていただきました。全般的にわかりやすい御説明をしていただきまして、本当にありがとうございました。一言で言うならば、非常に堅調な状況であるというふうに思いますし、手堅く運営されていることがよくわかりました。例を挙げますと、以前から問題を指摘されておりました風力発電の状況をお伺いしても、風という不安定な状況下の中でいろんな対策をとられながら、日ごろの欠かさないメンテナンスの状況、それから、今までの蓄積された緻密なデータ分析など、これを併せながら、実績値を非常によくしていただいているということがわかりました。御努力の賜物だというふう感じた次第でございます。企業局におかれましては、本日出されました委員の御意見について、十分に御検討の上、今後の企業局の業務運営に生かしていただきたいと思います。

そろそろ時間も参りましたので、本日の議事を終了したいと思います。委員の皆様方には、議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。